

明るい 未来のための REDDプラスとSDGs

熱帯林の保全は 気候変動対策につながる

現在、熱帯林の減少や劣化を防止することで二酸化炭素の排出量を削減する取り組みがなされています。REDDプラス^①と称されるこの取り組みは、気候変動枠組条約の締結国会議の中で十数年にわたって議論がなされ、本格的な始動の時期を迎えています。

REDDプラスでは、実施国が対策を施したことによる二酸化炭素の排出削減量をいかに正確に把握できるかが成功の鍵になります。しかし、実施国の多くでは、森林面積を把握するための情報（衛星データ、統計データなど）や、地上で得られた実測データの不足などによって、森林炭素蓄積量を



写真1 森林炭素蓄積量推定のための地上調査（マレーシアで撮影）
このような巨木では直径を測るのも一苦労である。

把握することは決して簡単でないのが実情です^②。また、地元住民にREDDプラスの活動を理解してもらい、プロジェクトへ積極的に参加してもらえようという仕組み作りも重要です。

REDDプラスは SDGsの実現につながる

本号の特集のテーマでもあるSDGs（持続可能な開発目標）は、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標ですが、中でも「気候変動への対策を取る」「目標13」と「陸の豊かさを守る」「目標15」は特に森林と強く結びついています。

先に説明したREDDプラスの取り組みは、まさにこの2つの目標を達成するためにも欠かすことのできない行動のひとつでしょう。しかし、REDDプラスのSDGs達成への貢献は上記の2つの目標だけに留まりません。森林の持つ多面的機能は、REDDプラスで対象としている気候変動の緩和だけでなく、土砂災害防止、水源涵養、文化的価値、生物多様性保全など多岐にわたります^③。REDDプラスの実施によって、森林減少を

免れることができれば、わたしたちは森林から、多くの恩恵を受け続けることができるのです。

持続可能な社会のための 利用と保全を考える

人と森林のつながりは人類の誕生と共により、切っても切れない関係にあるといえるでしょう。森林は、木材の生産原料だけでなく、医薬品や伝統工芸品の原料となる非木材資源を得る場所として



写真3 森林認証を受けた森林での伐採現場（パラグアイ共和国で撮影）。森林資源を次世代に引き継ぐためにも持続可能な経営による木材生産が重要である。



研究者の横顔

Q1. なぜ研究者に？

地方公務員を目指していましたが、大学の恩師に強く勧められたのがきっかけです。

Q2. 影響を受けた人など

やはり、大学の恩師に強く影響を受けました。恩師は研究所のOBでもあるのですが、とにかく現地を自分の目で見ることの重要性を教わりました。実際に目にしてきた人の言うことは説得力があるということでしょうか。

Q3. 研究の魅力・醍醐味とは？

パラグアイ共和国で、現地の大学、行政機関と共同でREDDプラスに関する調査を行い、その結果、森林炭素蓄積を推定する独自の式を開発することができました。パラグアイが国連に提出した報告書にわたしたちの開発した式による推定結果が採用されましたが、この時に世の中の役にたつ研究が少しだけでもできたかなと思いました。

Q4. 若い人へ

今はインターネットが発達して、すぐに検索という形で調べることができます。でも何か疑問に思ったとき、便利なインターネットを使わずに、まずは自分の頭で考えるということをしてみてください。自分で考えるということを習慣づけるのが大切だと思います。

▶註1：REDDプラス

途上国での森林減少・劣化を抑制する努力を評価する仕組み。REDDは「途上国における森林減少・森林劣化に由来する排出の抑制、並びに森林保全、持続可能な森林経営、森林炭素蓄積の増強」を意味する英語の略。



佐藤 保 Sato Tamotsu

森林植生研究領域長



写真2 森林の有する多面的機能とSDGsとの関係



写真4 ペルー山岳地域では植物由来の染料で鮮やかな織り糸を作り出している。



利用されています(写真4)。また、現在はその価値が未知数でも、将来は有用な資源となり得る植物も生息している可能性があります。

わたしたちには、森林を持続可能な資源として利用しながら、保全とのバランスを心がけた管理を行い、少しでも多くの森林を次世代に引き継いでいく責任があります。REDDプラスやSDGsの目標は、個人の活動だけでは達成できるものではありませんが、一人ひとりがその意義を理解して資源の有効利用や消費活動に繋げていくことで、目標達成に近づくことができるのではないのでしょうか。